

第3回岩見沢市市政改革懇話会 会議録（要旨）

● 日時、出席者等

日 時	令和 6 年 11 月 6 日（火） 10:00～11:30		
場 所	岩見沢市役所 3 階 庁議室		
出席委員	会 長 阿 部 啓 吉（株式会社コミュニティエムはまなす 代表取締役） 委 員 木 村 聡（岩見沢商工会議所 副会頭） 委 員 鈴 木 聡 士（北海学園大学工学部生命工学科 教授） 委 員 角 美弥子（北海道教育大学岩見沢校 准教授） 委 員 米内山 定 雄（岩見沢市町会連合会 会長） 委 員 東海林 公 子（いわみざわ男女共同参画プラン推進市民会議 代表） 委 員 干 場 法 美（岩見沢市町会連合会 副会長）		
欠席委員			
市側出席者	岩見沢市長 副市長 副市長 総務部長 企画財政部長 総務部職員課長 企画財政部企画室長 企画財政部財政課長 企画財政部企画室企画調整担当主幹 企画財政部企画室主査 企画財政部企画室企画調整係	松 野 哲 飯 川 正 裕 佐 藤 匡 之 中 川 雅 博 小 泉 健 篠 田 道 生 北 辻 寛 高 瀬 正 浩 山 田 努 二 木 ルミ子 金 子 拓 志	

● 会議録

次 第	発 言 者	内 容
1.開会		
2.市長挨拶	松野市長	※市長挨拶 （略）
3.会長挨拶	阿部会長	※会長挨拶 （略）
4.協議事項 (1) 令和6年度行政評価における外部評価について	事務局 委員	○会議資料に基づき、「令和6年度行政評価における外部評価について」の概要説明を行いました。 ※会議資料 別紙資料1のとおり 1回目、2回目はどうしても都合がつかず、出席できなかったということもあるので、具体的にこう修正したらいいというのはないですが、やはり評価の際に、どうしても定量的に評価したいということで、得られる数字を示すしかないという部分もあると思いますが、それをどのように実際の満足度に近いものを加工するのかわかるのか、あるいは、もしそれがなかなかできない場合には、意識調査の結果などをうまく組み合わせながら今後やっていくしかないのではないかと感じています。 なので、具体的にこれをこう変えましょうという話をするつもりはないのですが、例えば6ページ目の3-5 観光の振興で、ホームページにどれぐらいアクセスしたか、確かに分かりやすい数字ではあるのですが、それだけでは評価しきれない部分がありますので、インプレッション数を追加するというこ

次 第	発 言 者	内 容
		りますし、フォロワー数ですね。要は、ファンがどれぐらいいるのかというのは、結構、数字でよく見える部分でもあると思います。客観的に取れるデータを幅広く検討しながら、できるだけこの定量的な評価を実際の満足度に近づけるよう、継続しながらご検討いただけるとありがたいと思います。この段階で何か変えましょうということではないですけれども、そういったものをできるだけ幅広く追求していくという方向性が今後必要なのかなというところでございます。意見であります、以上です。ありがとうございます。
	市長	私ども、市政に取り組むにあたって、満足度というのを非常に重視していて、それをどのように評価していくのか。そこで、KPI や定量的評価というのはどうしても数値としてあるのですけれども、そこはやはり継続的な評価が必要だと思いますので、委員からご指摘があったように定量的な評価として、より客観性を持たせて評価できる項目というのは、事務局としても、私どもとしても、重要視していきたいと思っています。 また、どうしても満足度というのは、昨年と比べてどうなのかという評価になりやすいのですが、やはり全国、全道ベースでどういう位置になるのか。除排雪では特にそう思うのですが、財政が厳しい中で、あれだけの財源を生み出して満足度を上げるということも念頭におきながら色々拡充を図ってきていますが、これをさらに上げるとなると財政上はかなり厳しい話で、ここまでやっている自治体は他にないだろうと思うぐらいやっているのですけれども。そういった意味では、全道や全国などといった指標を使いながら、やはり主観的な評価だけではいけないので、客観的な評価をどのように取り込んでいくかというのは今後の大きな課題だと思います。一例として除排雪を挙げましたけれど、そういう項目は多々あるのかなと。色々これから検討していこうと思っております。
	委員	全体的に資料を見させていただいて、会議の内容がよく表れていて、直してほしいところは特にはないですが、強いて言えば、6 ページの 4-4 芸術文化・スポーツ振興の一番下の文化祭やスポーツ大会についてですが、「主催団体の構成（人数・年齢等）や活動内容を勘案し」ということで、うまく表現されていると思いますが、様々な団体で役員が高齢化して次の世代に引き継げないような状態が散見される、そういった意見を他の方たちからも聞きますので、うまく世代交代していくような働きかけをできるだけ早くしていただいた方が、若い世代が喜んで文化やスポーツに関わってくれるのではないかと思います。 また、5 ページに戻りますが、新産業の創出というのは、まちとしては非常に大きな喫緊の課題だと思います。特に農業に強い地域ですので、将来性のある産業が誘致できるのではないかと思いますので、ぜひ積極的に取り組んでいただきたいと思います。以上でございます。
	阿部会長	ありがとうございます。この色々な施策については、新年度予算の中で色々ご検討いただければと思います。
	市長	ご指摘のあった新産業と企業誘致の関係ですが、岩見沢市の工業団地はほとんど分譲しておりまして、工業団地自体はあまり余裕がない。その中で、2 年前に玉ねぎの加工を行っている企業の誘致ということで、農業とリンクした施設ができて、今、拡充に向けて色々と協議が始まっています。 その他に、全くこれとは別ですが、高速道路の岩見沢インターの志文寄りといえますか、あそこに、南空知流通工業団地という北海道の土地開発公社が持っている広大な土地があるんですが、そこと連携をして、分譲あるいは長期賃貸といったことをやっていこうと積極的に協議しています。進出する企業も 1

次 第	発 言 者	内 容
		社目処がついてきたというのがありますが、それに加えて、これからはやはりGXという観点がどうしても必要になってきます。 岩見沢では、全市的に分散型エネルギーインフラプロジェクトの概要調査を行っており、脱炭素に向けた再生可能エネルギーを使った事業展開が企業誘致のインセンティブにもつながりますので、そういったことも含めて、土地開発公社と色々協議しています。それと合わせて、千歳からの時間距離を縮める上での道道の改良なども並行して行っておりますので、まずは企業進出に備えてポテンシャルを上げていくのと、岩見沢でグリーンエネルギーを作っていくことの取組みを始めているところです。
	委員	外部評価について、9月24日、25日に色々議論させていただきましたので、これでいいのかなと思います。 全体の意見集約の中で、やはり岩見沢市役所は一番大きな企業で、一番大きな人数を抱えておられると思うんですね。そうすると、色々な情報が入ってくると思うんですよ。そこをうまく汲み上げていくような仕組みがあったらいいのではないかなと思うんですね。それぞれ部門ごとにはやっていると思いますが、全体的なものをどこかで吸い上げて、こんな意見もあるんだというのが、行政の中に活かされていけば、なおいいのではないかなと思います。今、現在もそういった取組みをされているかと思いますが、より深く、より広く、このような取組みをしていただければと思います。
	市長	重要な視点だと思います。夏と秋にサマーレビュー・オータムレビューを、ボトムアップも含めて実施していて、最近はこちらかというと新年度予算の前哨戦みたいになっていると自分自身で思うところもありますが、当然、それぞれの職員が、それぞれの現場の第一線で色々な話を聞くわけですから、そういったものをサマーレビューやオータムレビューで取り上げるということについては、やっていくのが当たり前だと思いますし、努力してまいります。
	委員	資料をまとめていただきましてありがとうございます。 9月24日に協議しました地域福祉の推進のところで、うちの栗沢地区で、明後日、町会長と民生委員さんが集まって合同研修会をやることになっていきます。その合同研修会の中身については、市民連携室と相談させてもらって、民生委員さんだけではない問題がかなり多くなっていますので、町連や町会長さんとも連携しながら、今後、どのように進めていけばいいかということテーマにやろうとしています。この行政評価の会議がきっかけとなって、地元でも研修会を実施して、それがいい方向に進んでいき、岩見沢市全体に広まっていけばいいと思っていますので、きっかけ作りという部分でもありがたいと思っています。以上です。
	市長	民生委員さんのなり手不足の問題というのはあるのですが、全道的に見ても、岩見沢市の充足率は決して低くはない。それだけ地域のコミュニティ活動を含めて、熱心に取り組んでいただいているのは本当にありがたいです。 また、民生委員さんの連合体である民協の活動も活発になっています。民生委員さんというのは、法律によって報酬などが決められているので、私どもとしては、それに代わるものとしてその連合体に対して活動支援みたいな形で市の予算を振り向けているのですが、そういったものも含め、常々思っているのは、民生委員、児童委員さんというのは、健康福祉部が所管ですが、地域のコミュニティ活動と非常に密接な中で、むしろ、地域のコミュニティ活動の中に民生委員さんの活動があるというようなところがあって、そういった意味では、わりと市役所は民生委員さんに頼っているということが実は過去にはあっ

次 第	発 言 者	内 容
		たので、非常に業務が多くなり、逆にそれが、民生委員さんのなり手がいない、減ってくるというような側面もあったので、そこは民生委員さんの活動をしっかりサポートできるような、なんでもかんでもやってくださいということはやめて、本来の民生委員さん・児童委員さんの業務や役割をしっかりとできる環境を整えましょうということと、今、お話を聞いて思ったのは、先ほどちょっと申し上げたように、健康福祉部と市民連携室、ここの関わりをもっと深めていくということはしっかり市役所の体制として考えていきたいと思います。
	委員	まとめてくださってありがとうございます。 全部言われてしまいましたし、特にどうこうということはないんですけど、定量的な評価だと、やはり人口減少に引っ張られると、せっかく皆さん頑張っているのに、評価ダウンになってしまうので、定性的なところで、人数は減ったけど、その分、中身が濃いというところをもう少し強調していただけると、やる気にもなるんじゃないかと思っています。また、私は大学に関わる者ですから、芸術文化・スポーツの方では色々と意見をいただきまして、こちらも参考にしながら大学側としても頑張っていきたいと思いました。それで、個人的には、文化財や郷土科学館を活用していただけるということで、今後もぜひお願いしたいというところです。
	阿部会長	単に数字じゃなく、努力が見えるような評価というものがあればということですが、事務局ではどう考えていますか。
	事務局	この制度を作ったのが、5 年以上前の話になりますが、全国でいろんな評価をやっていて、それが 10 年とか 20 年前からやっけていまして、結構、いろんな模索をしていて、失敗例がものすごく積み上がっているという世界です。 どういうところが失敗かと言いますと、まず評価に頑張りすぎて、ものすごい量の評価をしすぎて、もう誰も見ることができない評価にするという、これをやめようというのが当初ありました。 もう 1 つ、評価の精度をなんとか高めていきたいという、それは、今の定量的、定性的というのがまさしくそのとおりで、あるいは我々の見方と、それから委員さん、市民の皆さんの見方が当然違うだろうと。それは、市民意識調査の結果にも表れていまして、市民意識調査で一律のランク付けがされてしまうわけですけど、それが、市長も含めた我々職員が納得できる部分とできない部分があるので、評価の制度として、もっと突き詰めていきたいと考えています。 それから、手順として、まず各課で評価をしますが、どうしてもばらつきがあります。ポジティブな評価をする人、ネガティブな評価をする人、あるいは評価がしやすい仕事、それからそこが見えにくい、まさしく定量的、定性的に繋がってくるんですけど、そういうものもありまして、そのばらつきを 2 次評価ということで、企画財政部である程度補正をして、ばらつきをできるだけ抑えようとするんですけど、なかなかうまくいかないですし、自分たちなりにある程度うまくできたなと思っても、外の委員さんから見ればいろんな指摘をされてしまうということで、できるだけ評価の精度を高めていって、外向けに市民の皆様に出しても、我々の考え方と市民の皆さんの見方ができるだけ近づくように進めていきたいということを考えて 5 年以上進めておりますが、なかなかうまくはいかないというところがあります。究極の目標としては、評価の結果を予算編成や政策の見直しにしっかり反映させることを目標にしております。 総合計画、10 年間の計画で、今 6 年、7 年になりますので、もうあと 3 年したら新しい計画を上げなければいけないのですが、そこも見越しながら、この

次 第	発 言 者	内 容
(2) 行 財 政 改 革 の 取 組 み に つ い て		行政評価をできるだけよりいいものにしていきたいと考えておりますので、この点に関しては、引き続きご協力をお願いしたいと思っております。
	委員	市民の立場から見ると、行政サービスは悪く見えるものなので、去年より今年、今年より来年、お金が増えたとか減ったとか。それこそ先ほど市長が言われた除雪で言えば、除雪にかけたお金が増えたとか減ったとか、そういうものは多いようなので。ただ、ある程度客観的な物差しのようなものがあるといいというのは、一市民としてはそう思いますが、それがなかなかできないから、行政の皆さんは苦勞されているだろうなという思いはしています。そこは、それぞれ精度を高めていただければと思います。
	事務局	おっしゃるとおりお金をかけると評価は上がるんです。自分たちの評価も上げやすくなるし、何か確実に良くなっていることが見えるので、これ良くなったねって言うていただきやすくなるんですけど、このご時世では、そこを工夫しながら上手に施策を作っていかなければいけないので、そういったところもちょっと苦慮しているところです。
	事務局	○会議資料に基づき、「行財政改革大綱の取組状況」の概要説明を行いました。 ※会議資料 別紙資料2のとおり
	委員	この行政改革大綱について、内部に対する取組みというのはよくわかるのですが、外に対する取組みがあまりわかりません。私がちょっと聞くところによりますと、例えば交通の便が悪くなっている中で、バス停のところに椅子があると、お年寄りからするといいなと思いますので、目に見えるところをもう少し取り組んでいただくといいのかなと思っております。
	事務局	バス停ですと、どうしてもバス会社さんの所有だったり、色々あったりしますので、そういう点については、私もバスに乗ると、待ち時間が長くて座りたいなと思うことももちろんありますので、そういった意見もバス会社さんと意見交換しながら協力を求めていきたいと思います。
	委員	まず、2 つお話しさせていただければと思うんですけども、資料 4 ページ目にある数字を見ていくと、すごく長い間関わらせていただいて、ずっとこの取組みを見させていただいた結果として、ここまでよく本当に実現されたというのは素晴らしいことだと感じます。 これをどのように市民に見せているのかというのがすごく大事だと思っていて、同規模、あるいは同条件の道内の自治体とどれだけ比較できるかという難しさはあるのですけれども、私は直感的な感覚ではありますが、これはかなりすごいことを実現されたんじゃないかと。130 億円の不足を 3.6 億円まで圧縮したことはすごいと思うんですが、同じような指標で全道の他の自治体と比較すると、実はここまですごいことをやったという部分で、情報発信の仕方というのもやはりとても重要になってくると感じます。 前半の話とも関わるかもしれませんが、同じ情報をどのように示すのかによって、市民満足度が全く変わってくる部分もあると思いますので、分かりやすい見せ方での工夫があった方が、より市として努力したということがもっと市民にわかりやすくなるのかなというところでございます。感慨深く見ていました。130 億円をどうするかという議論から始まった記憶があるのですが、よくここまできたなというのが率直な感想でございます。 もう 1 点ですが、6 ページ目、7 ページ目に今までやってきたことと今後の部分になりますけれども、どうしても人口が減ってきて職員が減ってくると、

次 第	発 言 者	内 容
	市長	できることが限られてくるというのは間違いなくあると思うのですが、市役所の皆さんの役割というのは、将来、10 年後、市がどうあるべきかを考えて、企画を練って、将来に向かって色々やっていくという AI では絶対できないことにどれだけ人と時間を集中できるのかというのがとても大事になります。 そういう意味でも、7 ページ目の概念図はとても重要だと思っていて、大事なものは、職員のピンクの領域（非定型的で専門性が高い）をどれだけ増やせるのか。ここにどれだけ力を割いて、今後 10 年、岩見沢が良いまちになるよう市民が将来に希望を持てる企画をどれだけ練れるかが焦点だと思います。 そういう意味においても、この概念図は非常に重要だと思いますので、これを具体的にどのようにやっていくのかということと、大変な状況を今乗り切った上で、将来の 10 年で明るくてポジティブなものを示すことができるのかというのが、次に繋がることかなと思います。ぜひその部分で、こういうプロジェクトがあって、こういう将来ですよということが示されていくと、市民の皆さんの満足度が期待も込めて上がってくるのではないかと思いますので、このあたりをぜひ期待したいと思います。以上です。 確かに 130 億円を 3.6 億円までというのは、どちらかという歳入の改善を含めてというところで、これからは 122 億円のマイナスという数字がでていますので、さらにやっていかなければならないのですが、歳出の削減もやっていかなければならないとなると、市民サービスを落とさないでどうやるか、あるいは、受益者負担の適正化にどこまで踏み込んでいけるかなど、いろんな観点がありまして、そこはしっかりやっていかなければならない本当に一番大きな課題だと思います。 それから、ここ数年の懸案であった業務の棚卸について、実際にその職員がどういう仕事をして、そこにどれだけコストがかかっているのか、あるいは、時間がかかっているのか、そういったものを洗い出しています。民間のノウハウも含めて、色々作業しているのですが、その中でやはり一番重要な観点というのは、先ほど委員よりご指摘のあったとおり、専門性が高く非定型的な業務で、これからのまちづくりをどのようにしていくのか。いわゆる、職員力の向上にどのようにつなげていくのか。そこが一番重要な視点だと思いますので、しっかり努力してまいりたいと思います。
	委員	資料 5 ページの市政情報の共有と透明性の向上のところ、例えば、公式 YouTube の運用がありますけど、YouTube を見させていただきますと、1 年以内の新しい情報が 3、4 件ぐらいで、その他は 3、4 年前の動画ということで、YouTube は一旦始めますと、常に新しいものを入れてかないと、逆に言えば古い情報ばかりに見えてしまうようなところがありますので、SNS の情報発信力は高いですけど、情報がすぐに古くなってしまいう性質があると思いますので、継続してやっていただければと思います。 それから、行政手続きのキャッシュレスという話がありましたけども、今、納税に関しても国がキャッシュレス化を推進しておりますが、国税に関しては札幌国税局管内が全国で一番低くなっています。色々な要因はありますが、今後、岩見沢で納税のキャッシュレス化というのを大きくやっていただくと、逆に言えばアピールになってくるのかなと感じております。 最後に、ちょっと本当に個人的なことになりますが、昨日、教育大学の音楽を専攻している学生の方で、定期演奏会の広告協賛をいただきたいということで、実行委員長の 3 年生の学生と担当の先生がうちの会社の方にいらっしゃって、色々とお話を聞きました。国立大学でフルオーケストラをできるのは、全国でも広島大学と北海道教育大学岩見沢校の 2 つしかないという、ある意味すごい大学ですが、その定期演奏会で去年まで参加する学生が自己負担で 7,000

次 第	発 言 者	内 容
		円、今は色々上がって 1 万円出さなきゃいけない。それで、今後継続するのはなかなか難しいという話でした。岩見沢で大学生活を送っていただいている若い人たちが「ここで勉強してよかった」と思える環境づくりというのは、私も経済界の方で働きかけをやっていきたくと思いますけども、ぜひ市の方でも学生の気持ちを大切するようなサービスを何かしらできるのではないかと思いますので、ぜひお願いします。
	阿部会長	今すぐ回答ということにはならないと思いますが、SNS の情報で古いものが散見されるというようなご指摘もあったわけですが、方向性などについていかがでしょうか。
	市長	その点については改善が必要だと思います。そこは担当も含めて取組んでいきたいと思います。教育大学の関係では、岩見沢のまちの魅力の大きな 1 つは北海道教育大学岩見沢校で、教員養成ではなくて、芸術文化・スポーツに特化した学科を持っているということは大きな財産です。そういった観点で、去年の開庁 140 周年記念事業では 芸術文化・スポーツの祭典を開催して、市民の方がより身近なところで、教育大学の取組み、岩見沢の芸術文化・スポーツの取組み、ビエンナーレ、トリエンナーレ、そういったことも含めて、今後も継続していきましょうということです。つまり、本物に触れる機会が身近にあるというのは、やはり一番重要だと思いますので、市民の方も喜んでそれをサポートしましょうと言っていただけでも必要だと思います。
	委員	こういう評価する時によく満足度という言葉が出てきますが、一方、反対の評価というの、組み込んでみて、反対の意見や不満を受け止め、そして、その深さ・広さ・大きさといったものを行政の中に反映させていくのがやはり大事だと思います。市民としては、地域のコミュニティや健康問題など、たくさん不安な要素を持っていますが、それらに対しての満足度というのは、行政に対して様々意見としてはありますが、その反対の不満足というところも、行政にとっては非常に大事なところかなと思っています。これは意見でございますので、回答はいりません。
	阿部会長	ご意見ということでありますので、十分考慮していただければと思います。
	委員	資料 2 ページ行政改革の必要性という部分で、カーボンニュートラルの話をさせていただきたいのですが、副市長も道から来られているということで、道はゼロカーボンという表現で、具体的な数字ですとかそういったものが道も岩見沢市もあまり明確ではないのかなと思っています。当然、重要だということはわかるんですけども。それに関わる部分で、農業関係のことをお話するとすね、水田の中干しによるメタンガスの抑制ということで、昨年 2023 年度には 860 ヘクタールで取組み、その排出削減量が約 1,700 トンになりました。それで、今年から岩見沢市全体で、ほぼ全ての水田で中干しをする流れになり、今取組んでいます、面積では約 5,000ha ぐらいですので、約 1 万 t の排出削減になります。岩見沢市全体で取組んでいることですので、カーボנקレジットの売却をすごい悩みながら検討していますが、岩見沢市全体で、これだけの効果があるということを、数値化して何らかの形で示した方がいいと思っています。具体的な事例になりますが、これからの計画に役立てていただいたり、そういう価値があるということをご認識いただければと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思っています。

次 第	発 言 者	内 容
	委員	今の話は、お金をかけるということではなく、見せ方といいますか、考え方を変えれば、お金になるかもしれない。
	市長	投資効果というのが非常に高く、水田の中のメタンを発生させる菌が中干しによって減り、その効果として、地球温暖化に貢献すると。今、農家の方の収入として、10a あたり 1,000 円ぐらいですか。
	委員	いろんな取組み方法によって単価が変わりますが、平均すると 2023 年度ですと千数百円にしかならなかったです。
	市長	削減量をクレジットで売買できるので、それは専門の方をお願いしていると思いますが。これは議会でもご質問を受けて、そういうことをお答えさせていただいて、岩見沢市としても中干しというのは、非常に地球温暖化対策には効果的がある、要は農業の GX になるので、関係者の方と連携して取り組んでいます。地球温暖化防止実行計画には、中干しの取組みとか農業 GX というのは、そこまでの記述はなかったですが、今後そこはしっかり見せていくと。実際に農家の方の収入にもなり、なおかつ品質には問題がないというエビデンスも出ていますので。
	委員	市の PR といいますか、施策の中で反映できるものがあるのかどうかをご検討いただきたいと、PR の仕方は色々あると思います。目標等はあると思いますが、岩見沢市の目標としてはどれぐらいですか。
	事務局	2030 年に 46 パーセント削減です。
	委員	行政も含め、工業界もありますから、どれぐらい岩見沢市で排出しているのかというのは、その数字を拾い上げるのもなかなか難しいとは思いますが、削減値として実際にこういう数字がありますので、引き続きやっていただければと思います。
	委員	参考までに国が進めている目標はありますか。
	市長	全体目標として 46 パーセントの削減です。その中の 1 つの項目として、非常に効果的なのが中干しということで、本格的に始まったのは、去年からですかね。
	委員	そうですね。
	市長	そうですね。新しい取組みですね。地球温暖化防止実行計画の中に中干しという項目は入っていませんが、ただ、農業 GX というところの取組みでいうと、今まではどちらかという スマート農業によってエネルギー消費を抑えていくということがメインでした。
	委員	そういうのが進んでいって、農業所得がどれくらい増えるかですね。
	市長	10a で千数百円ですから、1ha で 1 万数千円ですかね。実際になさっている方からもご意見を直接聞いたこともありますけど、農業経営とっても win-win の関係ですね。
	委員	5,000ha がありますから、市全体で 5 億です。

次 第	発 言 者	内 容
	委員	財政の収支不足がすごく圧縮されたことに驚いたところで、効率的・効果的なことは大切ですが、こんなに減らして大丈夫なのかとちょっと心配をしてしまいました。また、満足度については、市民満足度は聞いているんですけども、市の職員さんの満足度、あるいは協働する相手はどうなっているかというは伺ってみたいと思いました。
	市長	ご指摘のとおり、やはり職員の満足度も自分としては重要だと思います。やはり働きやすい職場、働きがいのある職場を作るためにも、職員のエンゲージメントは重要なポイントになってくるので、これから勉強していきたいなと思います。それが岩見沢を愛する心と市役所を愛することに繋がってくる、そういう観点でまた勉強してまいります。ありがとうございます。
5.その他	事務局 及び委員	なし
6.閉会	会長	本日の議題については、滞りなく終了しましたので、これもちまして、令和 6 年度第 3 回市政改革懇話会を終了いたします。